がん種　骨軟部悪性腫瘍

レジメン名　AI 療法

催吐性リスク分類　高度

番号	薬剤名	投与量	投与方法	投与時間	備考	投与日								
						1	2	3	4	5	6	7	…	21
1	生食注シリンジ	10mL	静注		フラッシュ用	○								
2	7%炭酸水素ナトリウム注射液（メイロン）	40mL	点滴静注メイン	12時間		○	○	○	○	○				
	生理食塩液	1L												
3	アプレピタントカプセル125mg	1カプセル分1	内服	午前中	抗がん剤投与60-90分前	○								
	アプレピタントカプセル80mg	1カプセル分1	内服	午前中			○	○	○	○				
4	フロセミド注	10mg	点滴静注側管	15分		○	○	○	○	○				
	生理食塩液	100mL												
5	アロキシ点滴静注バッグ	1袋	点滴静注側管	30分	day1	○								
	デキサ-ト注射液1.65mg	6管												
6	生理食塩液	100mL	点滴静注側管	15分	day2-5		○	○	○	○				
	デキサ-ト注射液1.65mg	4管												
7	メスナ（ウロミテキサン）	400mg/㎡	ワンショット静注側管		イホスファミド開始直前	○	○	○	○	○				
8	イホスファミド（イホマイド）	2g/㎡	点滴静注側管	4時間		○	○	○	○	○				
	生理食塩液	500mL												
9	メスナ（ウロミテキサン）	400mg/㎡	ワンショット静注側管		イホスファミド開始から4時間後	○	○	○	○	○				
10	ドキソルビシン（アドリアシン）	30mg/㎡	点滴静注側管	15分		○	○							
	生理食塩液	50mL												
11	メスナ（ウロミテキサン）	400mg/㎡	ワンショット静注側管		イホスファミド開始から8時間後	○	○	○	○	○				
12	7%炭酸水素ナトリウム注射液（メイロン）	40mL	点滴静注メイン	12時間		○	○	○	○	○				
	生理食塩液	1L												
13	生食注シリンジ	10mL	静注		抗がん剤終了後のロック用						○			

1コース期間（次のコースまでの標準期間）　21日

総コース数　制限なし ※ドキソルビシンは最大6コース

休薬規定及び減量規定、中止基準	Grade2以上の有害事象で休薬、減量を考慮
その他	・出血性膀胱炎予防でメスナ併用 ・イホスファミド投与の1時間前から、できるだけ頻回に、かつ大量の経口水分摂取を行い、投与終了の翌日まで1日尿量3000mL以上を確保すること。 ・溶解後、室温保存では6時間以内に使用すること。